

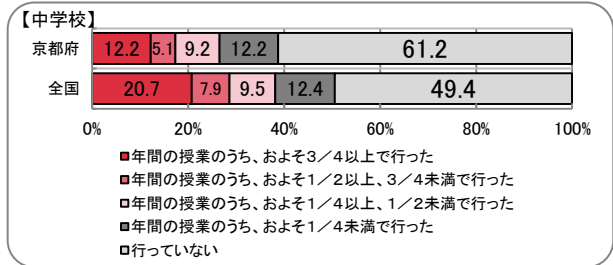
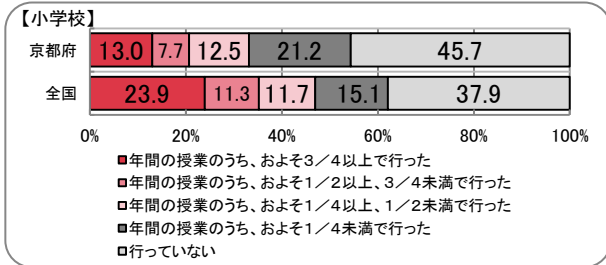
2 学校質問紙の調査結果について

京都府のデータは京都市を除いています

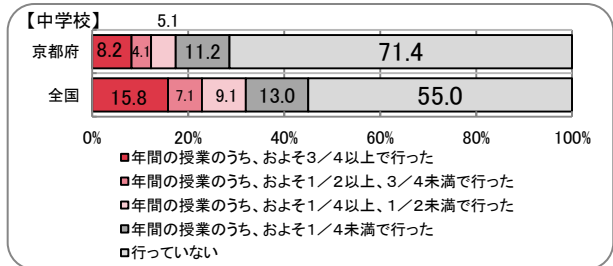
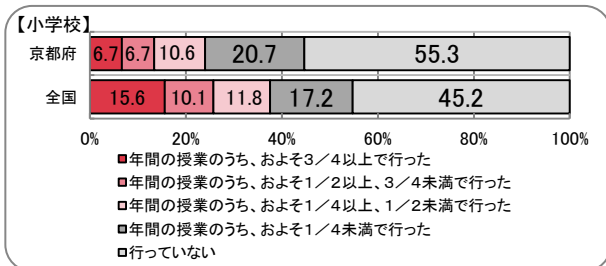
Q1～2は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP60参照

(1) 個に応じた指導

Q1: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、算数(数学)の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。

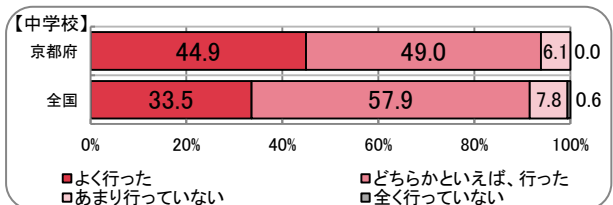
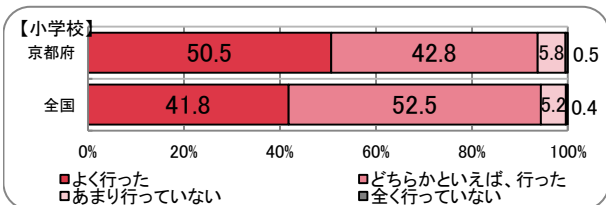


Q2: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、算数(数学)の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか。

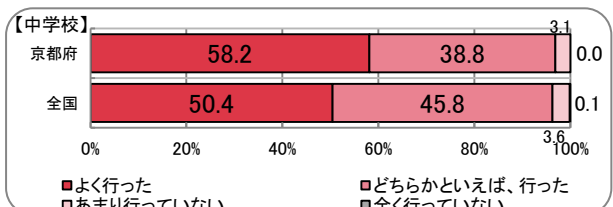
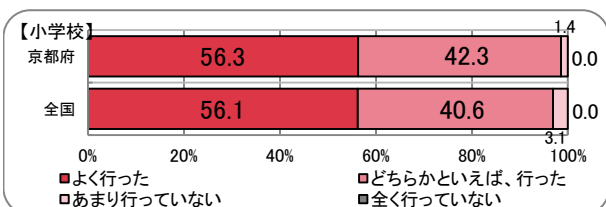


(2) 算数(数学)科の指導法

Q1: 調査対象学年の児童(生徒)に対する算数(数学)の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。



Q2: 調査対象学年の児童(生徒)に対する算数(数学)の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。



分析 少人数教育の実施は、実施学年や形態(ティームティーチングと少人数授業の組み合わせ)など、学校によって様々であるが、算数(数学)の学力向上の一因をなしていると言える。算数(数学)科の指導法では、Q1「補充的な学習の指導」、Q2「計算問題などの反復練習」は、小中学校とも肯定的回答の割合は全国平均よりも高く、基礎基本の学力を安定させる土台ができていると言える。